

子どもの育ちを支える日本子ども・子育てネット

ニュースレター■VOL：20（2023・1・12）

ここネット通信

日本子ども・子育てネットは
日本の子どもが遊びながら豊かに育つことのできる社会の実現と
日本の文化と命をつないでいく子育てを支えていく活動をしている団体です。

新年のご挨拶

ここネット会長・理事 柳溪暁秀

新年明けましておめでとうございます。

日頃より、日本子ども・子育て支援センター連絡協議会（ここネット）の活動に対しまして、ご理解とご協力を戴き深く感謝いたします。

さて、昨年は「第11回子ども・子育て支援全国大会 in 富山」を、～繋げよう！！子育て・保育を支える多様な対応を今に～をテーマに、「子どものための子育て支援」と「保護者のための子育て支援」の両方を、今の子育て支援と保育の一助となる為に開催し、全国から200名程の参集と100名程の録画配信でのご参加を戴き、厚く御礼申し上げます。

本会は、平成26（2014）年4月1日に、新澤誠治氏を初代会長として発足し、2代目木本宗雄会長と受け継がれてきました。私事ながら、昨年：令和4（2022）年6月27日の理事会で3代目会長を拝命することとなりました。木本前会長の事業や心情を踏襲し、全会員と新役員の方々からのご協力を戴きながら、

【『ここネット』の道標（みちしるべ）】の『家でも園でもセンターでも、3歳までに質の高い子育て（保育）を！』を旗頭に、「和を以て貴しとなす」を大切に事業を進めますので、ご理解とご協力を戴きますよう宜しくお願い申し上げます。

本年11月25日（土）～26日（日）に山形県で開催されます『第12回全国大会』で多くの方々にお目にかかれますことを楽しみにしています。

末筆となりますが、会員の皆様方の益々のご活躍とご健勝を願って、新年のご挨拶とさせていただきます。

合掌

ここネット幹事・山形大会実行委員 下村一彦

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

ここネットの全国大会を本年 11 月 25 日（土）・26 日（日）、東北文教大学（山形県山形市片谷地 515 番地）を会場に開催させていただきます。

『新たな学びと繋がりを東北の子育てに ～くらし・遊びを大切に育てへ～』の大会テーマに込めましたように、九州・関東・北陸を中心に構築されてきていますネットワークに、東北地方の仲間が加わり、子どもの豊かな育ち、保護者や保育者の学びや喜びが共有されるきっかけとなることを期待しておりますし、責任も感じています。

下記のメンバーが協力し合い、これまでの全国大会同様、素敵な講師陣を確保し、準備を進めておりますので、是非お誘いあわせの上、山形にお越しくください（オンライン参加にも対応予定です）。

最盛期を迎える<ラ・フランス>、県民のソウルフード<芋煮>、消費支出日本一奪還を目指している<ラーメン>を味わいながら、温泉県の<雪見風呂>なども如何でしょうか。
<12 回大会の実行委員（10 名）>

- ・若狭谷亮（山形市：認定こども園ちとせ） ・撫養みず紀（山形市：木の実北こども園）
- ・本間日出子（鶴岡市：認定こども園三瀬保育園）・佐々木俊則（大崎市：わかば保育園）
- ・木村創（仙台市：向山こども園） ・伊藤和美（鶴岡市：NPO 法人明日のたね）
- ・村山恵子（東根市：NPO 法人クリエイトひがしね）
- ・辺見妙子（福島市・米沢市：NPO 法人青空保育たけの子）
- ・佐久間美智雄（東北文教大学） ・下村一彦（東北文教大学）

ここネット副会長・理事 小岱紫明

あけましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

去年は、富山での全国大会で地元の皆様に変にお世話になりました。実りある研修でした。

あらためてお礼申し上げます。大会終了後に配信していただいた大会資料などを当園の職員研修に活かしています。

熊本では昨年 12 月に渡辺京二さんが亡くなられました。熊本子育てネットでも、講演に来ていただいたこともあります。あらためて『逝きし世の面影』を読んでいます。

江戸時代の日本は『子どもの楽園』であったと記録されており、当時のいきいきした子ども達の様相が伝わってきます。

今回の山形大会で全国大会も 12 回目を迎えます。あらためて東井義雄さんの言葉、『本物は続く、続ければ本物になる』が思い浮かびます。

昨年からの子育てに関して悲観的なニュースが多い状況ですが、皆様とともに励まし合いながら、頑張っていきたいと思えます。

ここネット副会長・理事 中川浩一

あけましておめでとうございます。新年早々岸田総理は、異次元の少子化対策への挑戦を掲げました。また今年4月から「こども家庭庁」がスタートし、さらに日本で初めて子どもの権利を謳った「こども基本法」が施行されます。その理念と政策をどう実現させていけるのかが問われます。

昨年、柳溪新会長の下で、ここネットの目指すべき旗頭・道標として『園でも家でもセンターでも3歳までに質の高い子育て(保育)を！～012 ストロング～』を決めました。

これまで30年間の子育て支援の現場での実践をここネットとして共有しあい、社会に向けて発信していきたいと思えます。そして時に施策提言などもするべきだと考えています。

皆様方にはアンケートや情報提供などご協力を頂けると助かります。

どうぞよろしくお願い致します。

ここネット副会長・理事 大谷光代

謹んで新春のお慶びを申し上げます。今年度よりここネットの副会長を仰せつかりました埼玉県の大谷と申します。

昨年11月の第11回全国大会富山大会は、残念ながら参加できず皆様に直接お会いすることは叶いませんでしたが、オンデマンド配信にてその素晴らしい内容にふれ、ここネットの研修の質の高さを再確認することができました。ここネットの学びの方向性は日本の子育て支援、保育業界の先頭を走るものと確信し、改めて今回の富山大会の運営を担当してくださった皆様に感謝申し上げます。

さて、オンラインのお陰で人を繋ぐ方法が多様化し、時空を超えた可能性が広がりたいへん便利になって嬉しい限りです。しかしWiFiがつながり関係は電波が途切れればそれまでです。富山大会を「みんなに会いたい」という一心で作ってくれたように、オオタニは手の届く子育て支援にこだわり、泥臭くいきたいと思っております。今年も皆様から多くを学ばせてください。どうぞ宜しくお願い致します。

ここネット副会長・理事 川副孝夫

新しい年の始まり、おめでとうございます。

出会った方々、祖父母の方々に敬うには・・・たいへん、たいへん、たいへん・・・

世の中もたいへん 感染を恐れ、みんな たいへん たいへん

出会うのが、少なくなって たいへん こどもは人が好き すぐ話しかける

だって人って 面白い さまざまな人に出会って いつのまにか人が好きになる

人を敬う心が培われている たいへん たいへん いそがなくては・・・

(以前の子育て支援センターは、世代を超えた出会いの場でした。邂逅が失われたとき、未来の社会は、どのように変化していくのでしょうか)

『突き抜けろ! コロナ禍にこそ、保育・幼児教育の出番だ』

令和5年あけましておめでとうございます。今年は「癸卯みずのとう」年です。

癸は静かで温かい大地を潤す恵みの水を意味し、新たな生命が成長し始めるという意味があるそうです。そして卯は穏やかな「うさぎ」の様子から、安全、温和そして跳ね上がる意味があり、何かを始めるには縁起の良い年といわれています。

あらためまして、昨年の富山大会ありがとうございました。そして今年の山形大会を期待しています。

本年4月には「こども家庭庁」が創設され、新たな子育て施策の始まりの年ともなります。3年続くコロナ禍で少子化が加速され、マスコミでも子ども・子育ての議論がない日がありません。私たち保育者は、今までの施設内での保育・教育の世界から、地域・家庭へまさに飛び込む契機となっています。ここネットの仲間たちがこれまで実践してきた地域子育て支援が、大きなうねりとなって動こうとしています。この難局ともいえる日本の子育ての現状を、みんなで力を合わせ希望のある未来へ突き抜けましょう。

「突き抜ける人の3つの条件」は、(1)誰も見ていなくても(2)やっても誰も褒めてくれなくても(3)それをやらなくても誰にも怒られない 行動を繰り返していくことにより、良い変化をもたらすとのこと。今年もここネットの仲間は、「突き抜けます」よね!

新年に期待を込めて、ご挨拶させていただきました。

以上

日本子ども・子育て支援センター連絡協議会理事 高木早智子

「理事就任のご挨拶～新年のご挨拶にかえて」

はじめまして。令和4年11月より当協議会の理事となりました、埼玉県の花園第二こども園園長の高木早智子と申します。

当連絡協議会、「ここネット」とのご縁は、平成30年に行われた第9回の全国大会で分科会の一つを担当させていただいたことに遡ります。「現場で活かす!0・1・2歳児の未来を育む“3つのT”」というテーマで『3000万語の格差』(ダナ・サスキンド著 掛札逸美訳 高山静子解説 明石書店 2018年)の内容をもとに、子育て支援についてどのように取り組んでいけばよいのか会場の皆様と一緒に知恵を出し合い、さらに翌年の2月に富山県の子育て支援関係者の研修会でも同様の内容で皆様と学びあえたことは私にとっても有意義なものとなりました。

その後も掛札先生と一緒に、配置基準についての調査研究を行うなど、乳幼児、特に0・1・2歳児の保育環境や保護者の子育て環境についての研究結果を発信してまいりました。

調査研究の詳しい内容をお知りになりたい方は掛札逸美先生の「保育の安全研究・教育センター」のサイトをご覧ください (https://daycaresafety.org/others_hoiku.html)。

しかし、新型コロナウイルス感染症によって社会が、保育の現場が、保護者が、子どもたちを取り巻く環境が、大混乱に陥りました。我々は感染の恐怖におびえながら、緊急事態宣言期間の家庭保育への支援の模索、職員や園児の感染拡大による休園や過剰なまでの園内消毒、保護者に対する説明や行政への報告、そして関連書類作成に追われる日々。支援センターですら、利用制限を行わざるを得なかったこの3年間でどれだけ我々は疲弊していったことでしょうか。また昨年末からの「不適切な保育」における一連の報道。その内容と社会の反応に衝撃を受けるとともに、「保育」や「子育て支援」が社会の重要なインフラであることがこれ程クローズアップされたこともなかったように思います。

このタイミングで「ここネット」の理事を拝命したことに、とても意味があるのではないかと私は思っています。他の役員の方や全国の子育て支援センターの皆様方と手を携え、子育て支援の益々の発展、ひいては子どもが本当の意味で健やかに育てる環境の構築とその重要性を社会へ発信するために、微力ながらも尽力していきたいと思えます。

はなはだまとまりませんが、新年のごあいさつに代えて、私の自己紹介とさせていただきます。

ここネット幹事 中山 勲

ここネット 新年のご挨拶 社会福祉法人童心会理事長 中山 勲

【新年を迎え改めて“人の成り立ち”を考える】

新年明けましておめでとうございます。

私たち（社福）童心会の道しるべは“Well-being”です。

「幸せになろうね！幸せになろうよ！」を合言葉に“生きる”を学び続けています。

そして「自分を創る・人を創る」ことが人間教育に携わっている私たちの使命であり役割だと思っています。

新しい脳科学によると脳は4歳頃、臓器としてほぼ育ちを終えるそうです。また脳神経科学などの知見によれば、「学びの始まりは学校に入学する日ではなく、生れた日からです」とも言っています。私たちの人間教育の理念は「五感を刺激する0歳からの人間教育」です。

ようやく新しい科学的知見がそれを実証してくれたから、良い初夢を見ることができました。

皆さま、今年もどうぞよろしく願いいたします。

不尽

謹賀新年

昨年からここネット事務局長に就任いたしました。

新会長の柳溪暁秀先生そして新役員20名ともども、どうぞよろしく願いいたします。

年頭のご挨拶原稿を多くの役員の方々からいただき有難うございました。

感謝いたします。

ときにこの頃、マスコミ評論のなかで「少子化対策と子育て支援対策の混同」がこれまで少子化対策が進まなかった原因である、との論評を目にしました。少子化対策に本当に必要なのは成人男女が結婚したくなる施策であり、成人女性が子どもを産みたくなる施策だと。

見ていて、このこと、わからないではなかったのですが、マスコミ評論としてはあいかわらず言葉が先に走りすぎていると感じました。このような議論だけしていたのでは「鶏が先か卵が先か」の話のように結論先送りに落ちます。

そんなことを思いながらもやもやしていた新年のなかで古民家然な我が家の目前にある小学校から「いただきます」の元気な声が聴こえてきました。小学校1年生と放課後児童クラブの教室からかなと最初は思ったのですが違いました。「あっ」とこの元気な唱和が校庭での「ごっこ遊び」だったことを知りました。集まってお給食を食べるごっこ遊びをしていたのです。

コロナ禍の教室が黙食でも、校庭で遊ぶときは「いただきます」「おいしいね」のごっこ遊びをする子どもたちの光景に一瞬の光と希望を見出したものです。

ほほえましい新年の始まりとなりました。

今年が皆様にとってより良い1年でありますよう祈念するとともに共に未来を展望したいと願っております。